



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/19 (月)				休日			
9/20 (火)	▲ 200	+ 88,500	+ 88,300		CP等買入 ▲ 500 社債等買入 ▲ 300	国債買入 + 4,400	日: 全国CPI (前年比) (8月) 米: FOMC (21日まで)
9/21 (水)	トン	▲ 13,000	▲ 13,000				日: 政策決定会合 (22日まで) 米: FOMC声明発表 FRB議長記者会見と経済予測
9/22 (木)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	流動性供給			日: 政策決定会合、終了後に黒田総裁が会見 米: 新規失業保険申請件数 (17日終了週)
9/23 (金)				休日			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初508兆7,900億円から始まった。9/14には源泉税揚げ、国債発行により504兆8,800億まで減少し、504兆8000億(速報)で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初△0.032%から始まった。8月積み期最終日までは市場において波乱はなく△0.033%～△0.032%のレンジで推移した。新積み期初日の16日は、同積み期中に主に地域金融機関において新型コロナウイルス対応金融支援特別オペの期落ちを大きく迎えることから調達ニーズが減退し、同加重平均金利は△0.053%と大幅に低下した。

ターム物は新積み期スタートの1W～2Wを中心に△0.055%～△0.045%のレンジで出合いが散見された。

来週の主な予定は、国内では20日に全国CPIの公表、21～22日に日銀金融政策決定会合などが予定されている。海外では20～21日にFOMCなどが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ～ 0.001
1M	△0.060 ～ 0.020
2M	△0.010 ～ 0.050
3M	0.000 ～ 0.130
6M	0.000 ～ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初△0.085%近辺から始まり、週を通して△0.09%～△0.08%の水準で推移した。積み最終日となる15日受渡しの取引や、新積み期入りする16日受渡しの取引でもレート水準に大きな変化は見られなかった。SC取引は2年430～440回債、5年148～153回債、10年350～367回債、20年171～181回債、30年65～75回債、40年9～15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額(約9,800億円)を上回った。発行市場は、5・10日発行により、石油製品や電気業、小売業等の大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は先週末の28兆2,338億円から、15日時点で28兆705億円に減少した。市場残高は引き続き高水準で推移しており、発行レートは、0%から若干のプラスレートでの出合いとなった。

来週の週間償還額は、約9,400億円となっている。発行市場は、連休により営業日数が少なく、落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、0%近辺での出合いが多く、一部発行残高が積みあがった銘柄については若干のプラスレートを予想する。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ～ 0.000
CP 3M	0.000 ～ 0.005

<TDB>

9月15日の1Y1108回債の入札は、最高落札利回り△0.1338% (前回債△0.1311%)、平均落札利回り△0.1437% (前回債△0.1311%)、9月16日の3M1109回債の入札は、最高落札利回り△0.1135% (前回債△0.1102%)、平均落札利回り△0.1179% (前回債△0.1154%) となった。来週は21日に3Mの入札がある。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。